

「佐倉油田牧の野馬込跡」 江戸幕府が 作った牧場

市には、国・県・市指定文化財が178件あります。このうち分類として最も多いのは史跡になります。前回紹介した貝塚もこの史跡に分類されます。

市内の史跡は、この貝塚のほか伊能忠敬旧宅（国指定）、香取神道流始祖飯篠長威斎墓・久保本竹窓遺跡・佐藤尚中（県指定）などがあります。

ほかに古墳や城跡、塚、伝承地、墓所などがあり、油田牧は佐倉七牧の一つで、市内九美上付近を中心



油田牧の野馬込跡地形図
(千葉県の指定文化財第3集から)

合計37件が史跡に指定されています。

今回紹介する、県指定史跡「佐倉油田牧の野馬込跡」（九美上字駒込、平成5年2月26日指定）もその一つです。

公的な牧場「牧」

牧とは、江戸時代に野馬の生産を目的として幕府により整理、開発された公的な牧場のことです。

下総地域に多く設置され、西部に小金五牧、東部に佐倉七牧、合わせて12の牧が置かれました。

油田牧は佐倉七牧の一つで、市内九美上付近を中心

とした一带に広がっていました。野馬込跡は、この油田牧内に設けられた構築物の跡になります。

牧の周辺には野馬を囲い込むために土手が築かれていました。高さは3〜4メートルほどで、底部の両側には堀も設けられていたようです。現在は畑地が広がっていますが、九美上、大根、下小野、岩部、高萩などには部分的に土手が残されています、当時の風景が想像できます。

周辺の村々との境には木戸が設けられ、木戸番が寝泊りして野馬の番に当たっていました。今でも木戸脇、木戸口、木戸前、野馬木戸といった地名が残っています。

隣接する村々は野付村と言われ、牧に関係する御用、例えば土手の修復や堀浚い、馬の水飲場の掃除、野馬追い込みの足人の負担などが課せられていました。本矢作・福田・大根・返田・下小野・伊地山・高萩・岩部・助沢の9村が油田牧の野付村で、さらに周辺の村々50村ほどが霞郷として補助的な負担を課せられていました。

最大行事 野馬捕り

牧での最大の行事に野馬捕りがあります。これは毎年夏から秋にかけて成長した馬を捕獲するもので、近在から多くの見物客が集まったようです。現地役人

である牧士と勢力人足により行い、良馬は幕府へ送られます。そのほかは農耕馬や荷を運ぶ馬として民間へ払い下げられました。この際に野馬を追い込んで選別する施設が野馬込（捕込、込とも呼ばれる）です。一辺が60メートルほど、高さが3メートルほどの土塁で囲まれた区域で、選別のために内部が3部屋に区画されています。

油田牧の野馬込跡は、木立や雑草が生い茂り外からはその様子を覗うことはできませんが、内部に入るとこの形状が良好な状態で残されていることがわかります（私有地のため無断で立ち入りはできません）。



▲九美上地先に現存する野馬込跡

県内には、ほかに牧の遺跡がありますが、旧態をこれほど良好に残しているものは少なく、たいへん貴重な文化財といえます。